

一

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

この部分は著作権の都合上公表出来ません

この部分は著作権の都合上公表出来ません

この部分は著作権の都合上公表出来ません

問(一) 傍線部(a) (e)の漢字の読み方をひらがなで記しなさい。

問(二) 傍線部1「どちらも外見上は対称的に見えますが、その働きには差があります」とあるが、二つの脳の働きとして当てはまらないものを次から選び、番号で答えなさい。

- 1 大部分の人は言葉の働きは左脳が分担しており、左脳損傷による失語症はその特徴を示す例である。
- 2 西欧人は言語脳である左脳で子音を含む音節の処理をするが、母音は論理面を担当する右脳で処理する。
- 3 日本人では人の声のすべてで左脳が優位になることから、一概に「右脳の感情」とは言えない。
- 4 一般的に、左脳は知的な計算などを担当するほか、言語音を受け取るので「言語脳」とも呼ばれる。

問(三) 空欄「ア」に当てはまる言葉を次から選び、番号で答えなさい。

- 1 例えば
- 2 一方
- 3 さらに
- 4 つまり

問(四) 傍線部2「日本語で一体感を養っている日本人の役割がとても大きい」と筆者が述べる理由はなぜか。わかりやすく説明しなさい。

問(五) 傍線部3「アメリカ人があまり虫の音に気がつかない」とあるが、その理由を「脳の働き」との関わりを交えて説明しなさい。

問(六) 空欄「イ」に当てはまる四字熟語を次から選び、番号で答えなさい。

- 1 七難八苦
- 2 七転八起

3 艱難^{カタク}辛苦

4 七転八倒

問(七) 筆者の「日本人の感性」についての説明として、当てはまらないものを次から選び、番号で答えなさい。

1 日本人に包容力のある感性が備わっているのは、いろいろな音を言語として処理してしまうことが要因であると考えられる。

2 日本人は古くから自然と一体化してきたために、虫の音を理解する感性が育ったのではないかと考えられる。

3 日本人が虫の音を雑音ではなく言語として受け取るのは、それを情報処理する感性を持っているからである。

4 自然の音まで言語として処理する日本人の感性がつくられるものは大和言葉にあり、その研究を深めていく必要がある。

二

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

この部分は著作権の都合上公表出来ません

この部分は著作権の都合上公表出来ません

この部分は著作権の都合上公表出来ません

この部分は著作権の都合上公表出来ません

この部分は著作権の都合上公表出来ません

問(一) 傍線部(a)～(e)のカタカナの部分^を漢字に改めなさい。

問(二) 傍線部1「こんなこと」とは何を指すか。わかりやすく説明しなさい。

問(三) 空欄 A に当てはまる慣用句として最もふさわしいものを次から選び、番号で答えなさい。

1 首を垂れた

2 目くじらを立てた

3 膝を打った

4 臍^{はら}を噛んだ

問(四) 傍線部2「わかっていない」の「ない」と同じ用法の「ない」を波線部(ア)～(エ)から一つ選び、次の番号で答えなさい。

1 ア

2 イ

3 ウ

4 エ

問(五) 傍線部3「別の理由」とは何か。本文中から五字以内で抜き出しなさい。

問(六) 傍線部4「人間たちを踏みつぶしてやるんだが」とあるが、この場面でのジョンの心情の説明として最も適切なものを次から選び、番号で答えなさい。

1 象の暴走を恐れて脚を鎖でつなぎ、監禁する人間たちへの怒り

- 2 草食動物である象を危険動物だと考えている人間たちへの怒り
- 3 象の命を犠牲にして戦う心を高めようとする人間たちへの怒り
- 4 食糧不足を理由に象を処分しようとしている人間たちへの怒り

問(七) 傍線部5「この件が浮上する前から、二人の耳にはずっと象の花子がささやきかけているような感覚があり、動物たちの疎開という選択肢が常に頭にあっただった」とあるが、この部分の伏線にあたる部分を本文中から抜き出しなさい。

問(八) この文章における「ジョン」と「花子」の会話を踏まえ、あなたが感じたことや考えたことを百字程度で述べなさい。

令和7年度一般選抜（後期）問題（三月十二日）

国語解答例



- 問(一) (a)そんしょう (b)ほうがつき (c)じょうちょ (d)なげ (e)あいまい
問(二) 2
問(三) 2
問(四) 情報の統合ということが大切な時代に、包容力を持つ日本人の感性が役に立つと考えるから。
問(五) アメリカ人は、虫の音を脳の働き上、雑音として処理してしまうから。
問(六) 4
問(七) 2



- 問(一) (a)最期 (b)酷 (c)形相 (d)崇高 (e)詳細
問(二) ジョンが猛獣処分のために餓死してしまったこと。
問(三) 4
問(四) 2
問(五) 戦意高揚
問(六) 3
問(七) もう七年も前から考え続けて、飼育員たちに働きかけているの。どこか、別の動物園に移れないかって。
問(八) 略

出題意図

現代文の読解問題（説明文、小説）を2問出題。解答は記述方式とし100点満点（説明文50点、小説50点）で採点した。

設問内容は、漢字の読み、書き取り、接続詞、四字熟語、ことわざ、内容理解、内容説明を中心に基礎的な国語力を問うものである。